

米

の生産地訪問

青森県・秋田県・山形県



本会では9月中旬に青森県、秋田県及び山形県の各生産地へ赴き、JA関係者や生産者から生育状況、安全・安心への取り組み状況を聴取する等、生産管理体制を確認してまいりますのでご紹介します。



順調に収穫される「つがるロマン」

生育状況は、いずれの産地も7～8月の降雨量が少なかつたうえに日照時間も多く、高温であつた影響を受け全体的に短い穂となりましたが、穂数、籾数は平年より多く4年ぶりの豊作とのことでした。

青森県では近年、生産効率の高い「まっしぐら」という品種の生産量が増え、現在、青森県内で最も多く生産される品種となっています。しかし「まっしぐら」は「つがるロマン」のように「農薬節減米」(農薬の使用量が通常栽培される米の半分以下になっている)として流通する製品は、ありません。

本会ではより食味に優れ、より安心してお使いいただける「つがるロマン」の生産量を確保すべく「JAつがるにしきた」と交



生き物調査

渉しました。その結果「つがるロマン」は手間がかかることから、生産量が年々減ってきていますが、この約10年間、東京都学校給食会を通じて、東京の子どもたちに安全で食味の良い「つがるロマン」を食べていただいたことに感謝するとともに、今後も美味しく安全な「つがるロマン」の生産者を確保していきたい」と、力強い言葉をいただきました。



「自動化学分析装置」による土壌分析の様子

次に、全農青森では「環境にやさしい農業の推進」に対応するため「日本一健康な土づくり運動」を展開しており、各圃場から土壌サンプルを採取し、全農青森県本部の土壌分析センター等で成分分析を実施し、分析結果に基づ

き、肥料の適正な使用を生産者に指導しています。また、稲の刈入が終わった後にも、分析を基に再び土の状態を整え、品質の良いおいしい米を安定的に生産するための取り組みを行っています。

最後に放射性物質検査については、訪問した3県とも、玄米において「検出せず」の検査結果を得ており、安全性の確認をもって生産地訪問を終えることができました。

本会では毎年、学校に納品された米をサンプリングし、残留農薬検査・DNA検査・重金属検査(カドミウム)・一般生菌検査を実施しておりますが、昨年に引き続き、新米供給前に放射性物質検査も実施しています。これらの検査で「検出せず」の結果を得ているとともに、量につきましても十分に確保いたしましたので、皆様が安心してお使いいただける24年産米の益々のご利用をお待ちしております。